



第 2 章

仙川リメイクの評価

1

環境に関する社会動向

仙川リメイク策定後から現在に至るまで社会が求める緑や水の役割が変化しています。

近年の国や都の動向や本市で策定した計画などから、緑と水に関連する主な項目を以下にまとめました。

国	持続可能な開発目標 (SDGs) ^{※1} の推進	持続可能な世界を実現するために、環境への対策など17の目標を設定	
	グリーンインフラ ^{※2} の推進	自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進める取組み	
都	「未来の東京」戦略ビジョン (令和元(2019)年)	水辺を核に、ゆとりと潤いに溢れたまちをつくる	
	都市づくりのグランドデザイン (平成29(2017)年)	水辺を楽しめる都市空間の創出	→せせらぎ等の水辺空間整備の促進 (区市町村と連携)
市	武蔵野市第六期長期計画 (令和2(2020)年)	緑と水のネットワークの推進の調和	: 生態系ネットワーク・人と生物の暮らし
	第四期武蔵野市環境基本計画 (平成27(2015)年)	公共施設における環境負荷低減の取組み	: 集中豪雨による浸水リスク→水循環都市の構築
		環境啓発における市民活動との連携	: 緑に親しむきっかけとなる情報発信 : 参加しやすいボランティア活動の仕組みづくり
	武蔵野市緑の基本計画2019 (平成31(2019)年)	生物多様性に配慮した緑と水の保全・創出とその活用	: 自然が感じられる環境の確保
	武蔵野市生物多様性基本方針 (平成29(2017)年)	緑の将来像	: 仙川は「水と緑の軸」の位置づけ
		緑と水の魅力を輝かそう	: 緑と水辺の効果→防災・生物の生息環境 : 緑と水辺を良好に守り育てための長期的な維持管理 : 緑と水辺の大切さを学び共有する取組み
武蔵野市景観ガイドライン (平成29(2017)年)	景観資源を活かしたまちづくり	: 緑と水の景観ネットワークをつくる	



水辺環境の多機能性が求められている

本市の水と緑の軸に位置付けられた仙川の水辺環境は、その生態系と共に地域の財産であり、緑と水のネットワークの一翼を担っています。多様な生物が生息する水辺環境を良好に守り育てためには、長期的な維持管理を効果的に継続していくことが大切であると考えます。

※1 SDGs: 持続可能な開発目標。平成27(2015)年9月に国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するために、環境問題への対策など17の目標が示されています。

※2 グリーンインフラ: 自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進める取組みを示します。

2

仙川リメイクの実績評価

仙川リメイクの4つの基本的な考え方などに照らし合わせ、整備を進めてきた水辺環境について評価を行いました。

(1) 仙川リメイクの基本的な考え方による評価

① 水を楽しむ

仙川リメイク策定後に境浄水場と第二浄水場からの送水（水源の確保）が実現し、現在では水辺が育む様々な生物の生息環境が形成されています。

また、仙川リメイクの目標水量は、長期目標で35ℓ/毎秒とされていますが、現状は目標水量には達していないものの、水がなかった川に水辺が創出されました。



桜一の橋付近の吐出口



桜二の橋下流側の水流



千歳橋下流側の水流

② 歩を楽しむ

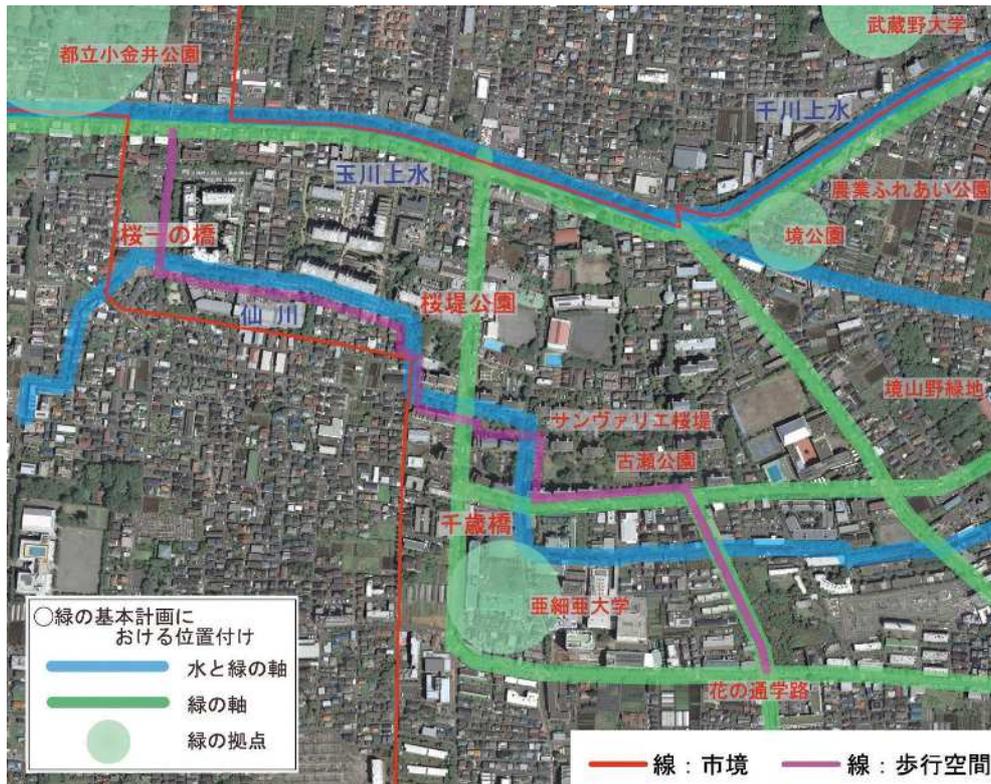


図2-1 仙川周辺の緑と水のネットワーク図

仙川沿いには、桜並木や団地内の緑が連続しており、水と緑の軸の玉川上水や亜細亜大学などの緑の拠点を結ぶネットワークが形成されています。また、桜一の橋から玉川上水までの桜並木の緑が、このネットワークを補完しています。

そして仙川沿いに配置された歩行空間と周辺の遊歩道などが都立小金井公園と花の通学路を結ぶ、緑と水を楽しむ「歩」の空間となっています。



桜一の橋と玉川上水を結ぶ桜並木



千歳橋と花の通学路を結ぶ桜並木

〈桜堤公園～千歳橋区間〉

団地に隣接する当区間では、仙川に沿って通路が配置され、緑も多く存在します。

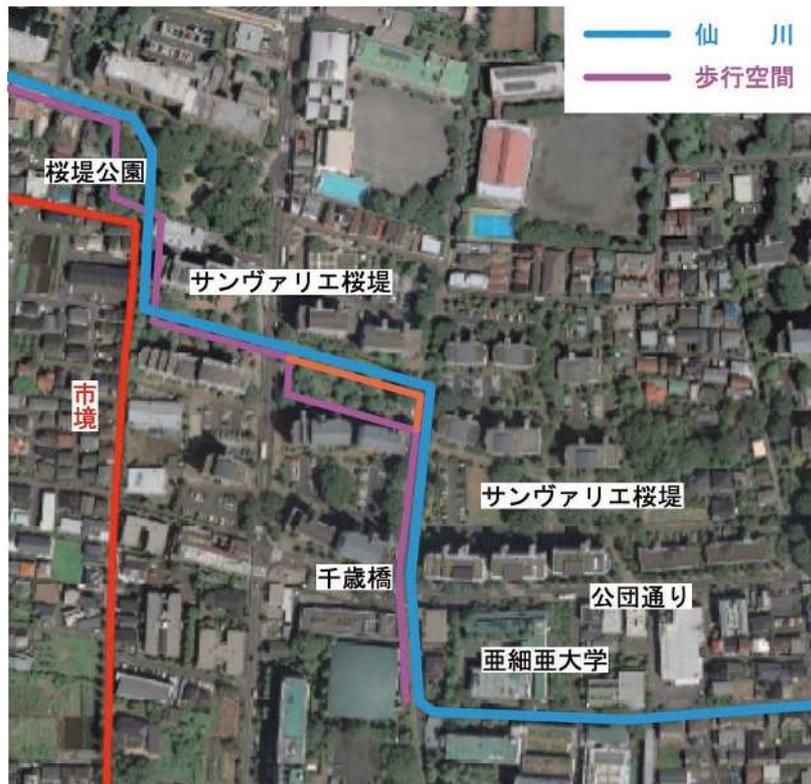


図2-2 仙川と歩行空間のネットワーク図

通路がない場所でも緩傾斜護岸に整備した場所では、散策や生物の観察などのレクリエーションで利用されています。



仙川沿いを散歩する人々



自然観察活動

〈千歳橋～亜細亜大学区間〉

千歳橋から南側は、仙川に沿った道路から仙川の水流や水生植物を眺めたり、メダカなどの生物を観察することもできます。一方、仙川が大学内の区間に入ると、川には近寄れなくなります。



ガマの穂

③ 花を楽しむ

改修した仙川と隣接部で実施した生物調査結果(平成30(2018)年)では、植物約160種、昆虫類約80種、他魚類や鳥類などが確認されました。水辺を生息環境とする動植物も多く含まれており、多様な自然環境が形成されていることがわかります。

また、仙川沿いには団地内も含め桜や花木が多く植栽されており、四季の変化を感じられることや、人々が自然と触れ合うことができる場となっています。

主な出現種(今までに見られた生物)



カワセミ



カルガモ



オオシオカラトンボ



ショウジョウトンボ



メダカ



モツゴ



ドジョウ



ニホンアマガエル



オモダカ、セキショウなど



アサザ、ヒメガマなど



タコノアシ



ミソハギ



ノハナショウブ



ジュズダマ

- 鳥類 : カルガモ、オナガなど全9種
- 哺乳類 : アズマモグラ、アライグマ
- 爬虫類 : ニホントカゲ
- 両生類 : ニホンアマガエル

- 魚類 : ミナミメダカ、ドジョウ、モツゴ
- 昆虫類 : シオカラトンボなど全82種
- 底生動物 : ヒメモノアラガイなど全2種
- 植物 : オモダカ、ヨシなど全165種

環境の模式断面図 (自然生態系復活ゾーン)

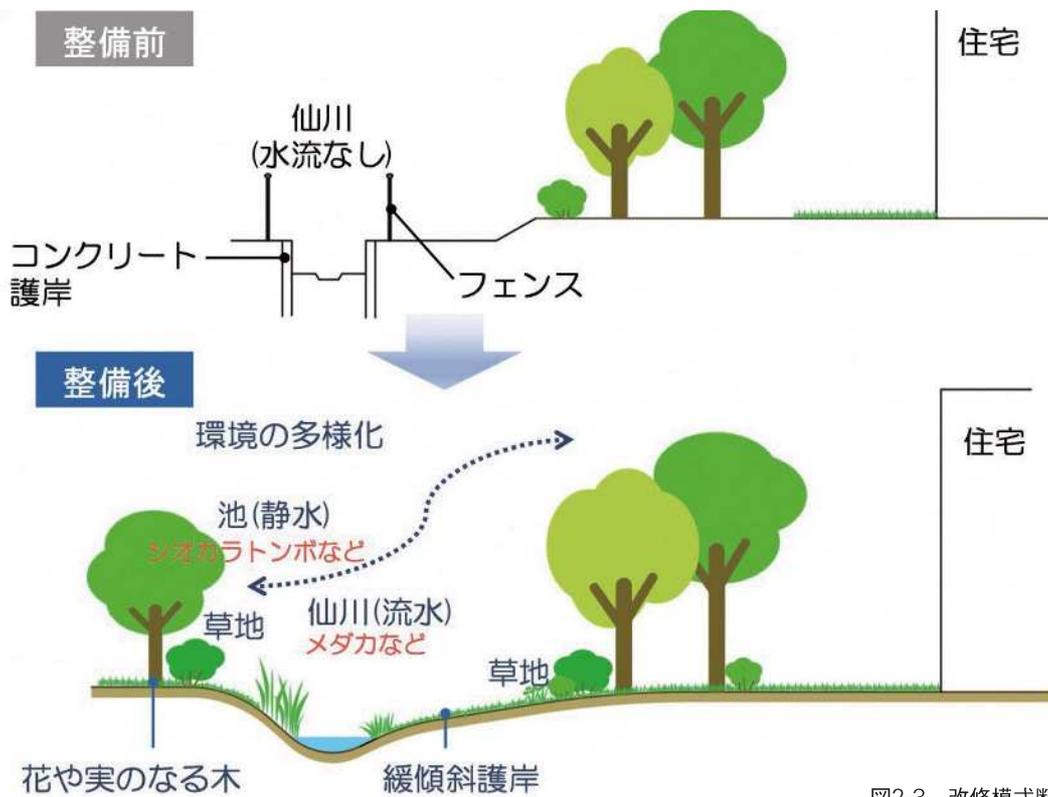


図2-3 改修模式断面図

花のある水辺の風景



市道第92号線沿いの桜並木



護岸を彩る花



団地内の枝垂れ桜



団地内の池を彩る花

④ 隣接地と一体的に楽しむ

〈公園に隣接する場所〉

仙川に隣接する桜堤公園、団地中央公園については、緩傾斜護岸や蛇籠の階段状の護岸によりフェンスなどを設けない整備を行った結果、仙川と一体的な緑地空間となりました。

〈団地内〉

団地と河川の境界にはフェンスなどを設けていないため連続する空間となっています。特に都市再生機構が管理を行う仙川水辺公園では、団地内に雨水を利用したビオトープ池があり、その水を仙川に流下させるなど一体的なつくりになっています。

〈桜一の橋～桜堤公園区間〉

地区計画により仙川周辺の民間の集合住宅に広場の設置が義務付けられたことで、道路歩道との連続性が高まり、オープンスペースの充実化に繋がりました。



一体的な緑地空間(左から桜堤公園・仙川・団地中央公園)



団地内の緩傾斜護岸と仙川



オープンスペース(広場8号)



民間集合住宅の仙川沿いの広場

(2) 社会的評価

① 防災

仙川沿いには通路をはじめとするオープンスペースが生まれ出されたことにより、避難路や仙川のオープンスペースが火災時の延焼防止など防災機能の向上に寄与しています。

② 表彰

平成22(2010)年には「生物多様性保護につながる企業のみどりの100選」などにサンヴァリエ桜堤と仙川が選ばれており、既存の桜や緑を保全しながら、周辺の公園や緑道とネットワーク化している点や水辺が水生生物の生息環境と観察の場となっている点などが社会的に評価されています。

生物多様性保護につながる企業のみどり100選

- 受賞者 : 独立行政法人都市再生機構
- 受賞年度 : H22年度
- 主催者 : (財)都市緑化基金
- 評価内容 :
 - ・ 既存の桜や緑を保全しながら、周辺の公園・緑道とネットワーク
 - ・ 池のエリアは、水生植物の生息環境と観察の場となっている



全建賞〈共同部門〉

- 受賞者 : 独立行政法人都市再生機構
- 受賞年度 : H11年度
- 主催者 : (社)全日本建設技術協会
- 評価内容 :
 - ・ 団地建替事業と合わせて、団地内の仙川を生き物が生息する水と親しめる空間に再生
 - ・ 水源は太陽光発電の動力で汲み上げた雨水を使用



平成25(2013)年には「全国の水辺自慢写真集」(国土交通省)に仙川が選ばれています(タイトル「いきものあふれる仙川」)。写真集は、身近にある川や水辺の様々な魅力や価値を再認識することを目指しており、仙川は生態環境の豊かなところが評価されました。



また、平成25(2013)年には隣接する民間の集合住宅が「グッドデザイン賞」に選ばれています。仙川護岸工事と連携して歩道状空地を整備し、そこに既存及び新植木の桜並木を形成することで桜堤らしい風景を未来に継承したという点が審査員に評価されました。

(3) まちづくりとしての評価

〈桜一の橋～桜堤公園区間〉

当区間では、桜堤地区 地区計画に基づく仙川と市道第92号線の付替えによって仙川沿いに幅員2.5mの歩道が整備されたため、遊歩道的な利用が可能となっています。

その他にも、地区計画によって次のような効果が得られました。

- ① 市道第92号線旧桜二の橋付近のクランクが解消され、交通の安全性が向上した。
- ② 河川に面していた住宅が歩道に接した。
- ③ 地区計画により仙川沿いにオープンスペース(広場8号)が整備され、河川と一体的な歩行空間が創出された。
- ④ 河川の蓋がけがなくなり、良好な街並み景観が形成できた。



蓋がけ



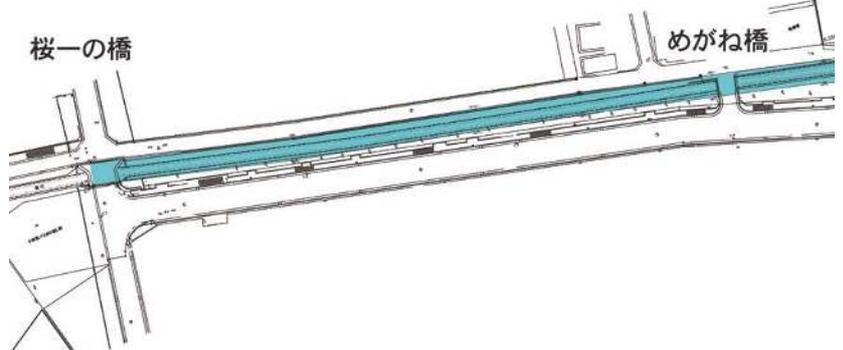
歩道化

整備前



桜二の橋付近

整備前

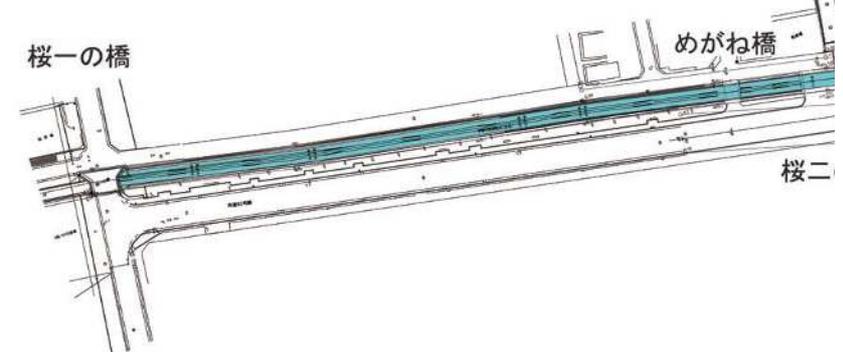


整備後



桜二の橋付近

整備後



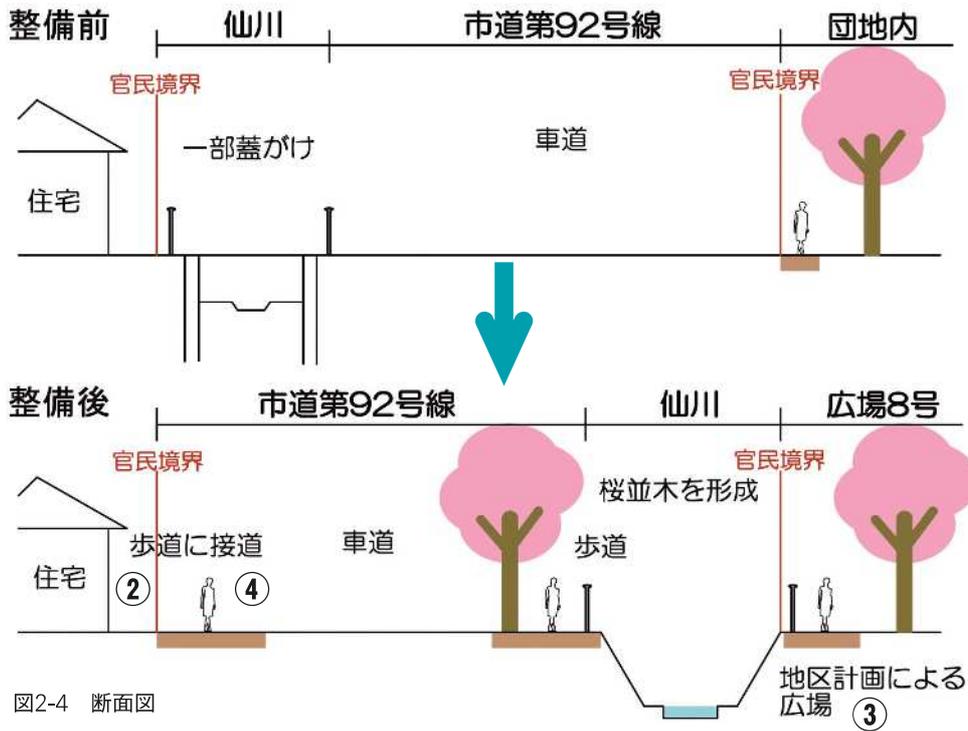


図2-4 断面図

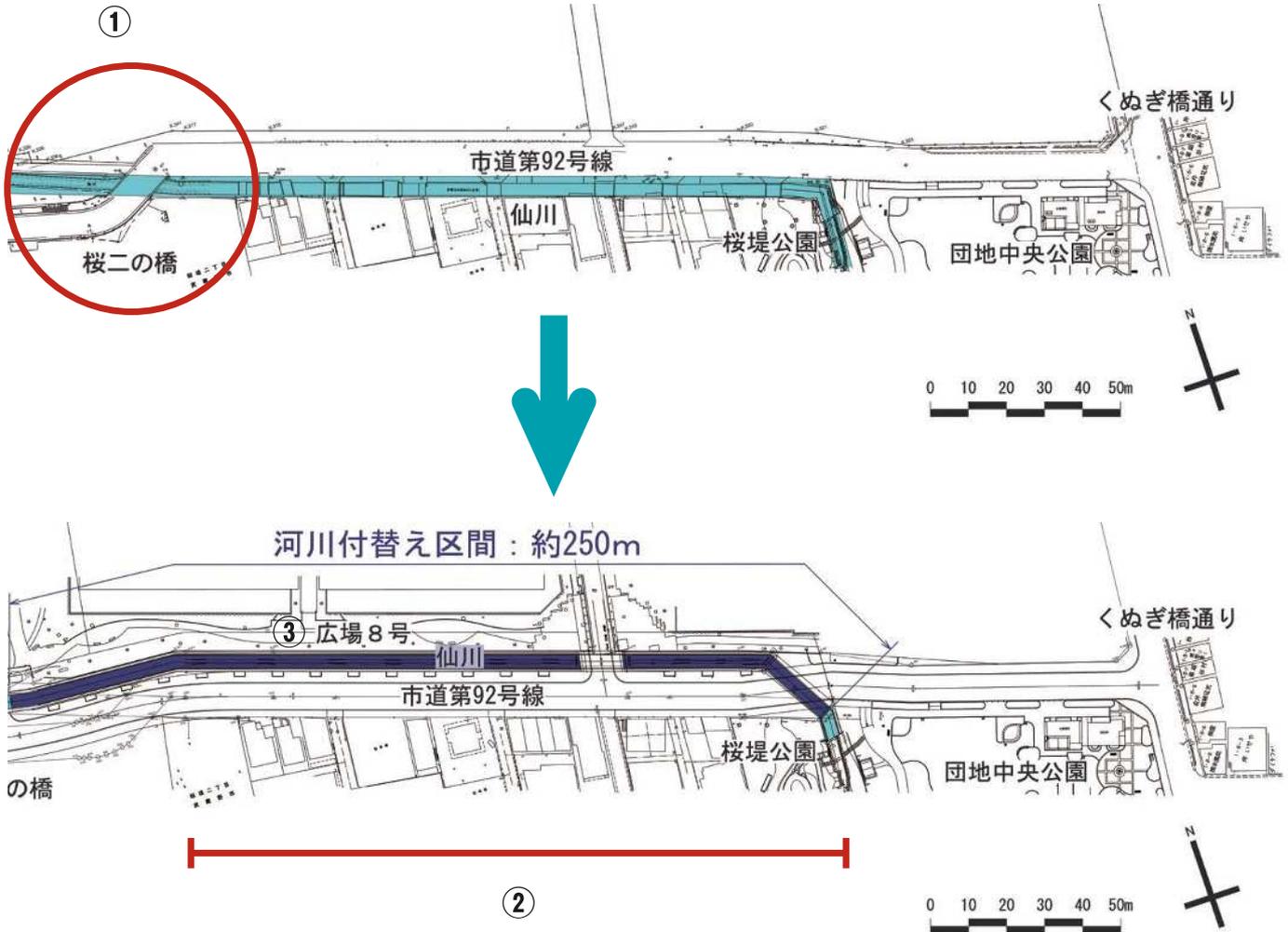


図2-5 平面図

